

# きのくに自主防災

<発行元>

第26号 (令和2年3月号)

和歌山県自主防災組織情報連絡会事務局 (和歌山県庁防災企画課内)

## 令和元年度和歌山県自主防災組織情報連絡会 情報交流会を開催しました!

### ●和歌山県自主防災組織情報連絡会 情報交流会とは?

南海トラフ地震・津波や風水害・土砂災害等の大規模災害に備え、地域の防災活動のさらなる活性化を図るため、和歌山県自主防災組織情報連絡会による情報交流会を平成17年度から開催しています。当会では、県内自主防災組織の取組についての様々な情報を共有し、地域の防災活動に役立てていただけるよう、先進的な取組を行っている自主防災組織の代表者の方による活動事例発表やパネルディスカッション等を実施しています。



会場の様子

今年度は、1月12日(日)に串本町文化センターにて開催し、田原区自主防災会(串本町)、潮岬区自主防災会(串本町)、和歌浦地区防災会(和歌山市)の3団体から活動事例発表を行っていただきました。また、国立明石工業高等専門学校 建築学科 もとづか ともき 本塚 智貴 助教がコーディネーターとなり、事例発表者とパネルディスカッションを行いました。

### ●活動事例発表

串本町 田原区自主防災会 会長 わだ みつあき 和田充旦 氏

#### ○田原区について

田原区は、南海トラフ巨大地震が発生した際には、区内すべての地域が津波により浸水すると想定されている地区です。

#### ○避難路の整備

田原区には、どこからでもすぐに津波避難ができるよう、15本の避難路があります。避難路は放置していると雨や風で通行不能になってしまうため、こまめな整備が必要です。そこで、避難訓練の際などに住民が一緒になって整備を行っています。

#### ○防災機材庫の設置

15本の避難路の頂上にある5か所の避難場所には、それぞれ防災機材庫が設置されており、ロープや懐中電灯、水、テント、トイレボックスなどが備蓄されています。



避難路整備



防災機材庫

串本町 潮岬区自主防災会 やまぐちけんじ 山口健児 氏

○潮岬区について

潮岬区は、地区のすべてが海拔40～80mの高台に位置し、津波被害の心配がありません。しかし、災害時には浸水区域から多数の避難が予想されるため、避難者の受け入れなど災害後の対策に力を入れています。

○災害時協力井戸

潮岬区自主防災会では、個人宅にある井戸水を災害時に生活用水として利用させてもらえるようにしており、該当井戸には分かりやすいよう看板を設置しています。また、井戸の位置をマップに示して掲示したり、水質検査を定期的を実施するなどしています。



災害時協力井戸

○ブロック塀撤去補助申請の代行

潮岬区自主防災会では、住民がブロック塀の撤去を行う場合に、町の補助金申請手続きの代行を行っています。この取り組みは、主に高齢者の支援として、大阪北部地震をきっかけに平成30年より始まりました。



撤去前



撤去後

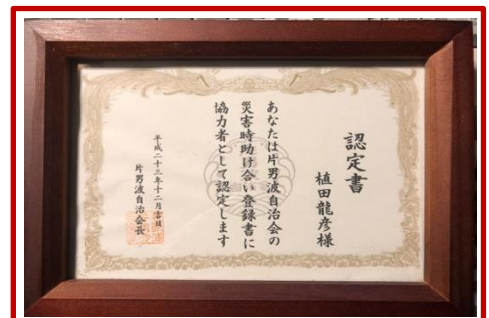
和歌山市 和歌浦地区防災会 事業局長 うへだたつひこ 植田龍彦 氏

○和歌浦地区防災会について

和歌浦地区防災会は、24の単位自治会の会長やそのほか様々な団体の代表者を中心に組織されている大きな組織です。そのため、和歌浦地区防災会では、まず少人数の事業局で事業計画をたて、そのあと常任理事会で意思決定を行うといった形でスムーズに活動を行える体制をとっています。

○助け合い登録制度

和歌浦地区の中の片男波地区では、災害時の避難に支援が必要な方と、支援できる方を登録しています。支援が必要な方の登録リストや居住地を示したマップを作成して地区に周知するとともに、支援できる方には、常に協力者としての自覚を持ってもらうために認定書を発行します。



認定書

○毎年の避難訓練

和歌浦地区防災会では、毎年避難訓練を実施しています。今年度も約380名の住民が避難訓練に参加し、その後は煙、AED、応急措置、消火などのさまざまな体験を行いました。

○防災功労者内閣総理大臣表彰受賞

これらの取り組みが評価され、和歌浦地区防災会は、平成30年に防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。



応急措置体験



## ●パネルディスカッション

地域の自主防災活動の経験を踏まえて討論を行いました。  
ここでは、ご意見の一部を紹介します。

### コーディネーター

国立明石工業高等専門学校 建築学科 本塚 智貴 助教

### パネリスト

- ・串本町田原区自主防災会 会長 和田充旦 氏
- ・串本町潮岬区自主防災会 山口健児 氏
- ・和歌山市和歌浦地区防災会 事業局長 植田龍彦 氏



パネルディスカッションの様子

Q. 避難路整備はどういった頻度で実施し、どういった人たちが参加しているのか？

#### 田原区自主防災会

定期的には年2回実施しています。さらに区の役員で不定期に実施しており、また、住民から連絡があった場合にも随時実施しています。昨年度の避難訓練の際には、小学生からお年寄りまで幅広い年齢の方が80名ほど参加してくださいました。高齢化や人口流出が進む中、若い世代が活躍してくれることに大変心強さを感じています。

Q. ほかの地域からの受け入れにあたって意識していることは？

#### 潮岬区自主防災会

ほかの地域からの避難者の想定人数は1,500～2,000名で、ピーク時に適切な対応ができるかが重要となります。炊き出しや備品などは余分に用意することとしており、また、慣れない場所での避難となるため、声掛けなど積極的なコミュニケーションをとる心構えが大切だと考えています。

Q. 避難所運営訓練を行う上でのアドバイスは？

#### 和歌浦地区防災会

実際に災害が起きたとき、防災会の中で誰が避難所運営のリーダーとなるのかを事前に決めておくことが大切です。一度 HUG(5ページ参照)で避難所運営の大変さを体験し、実感がわいてから炊き出し訓練などを実践した方が、より避難者に配慮すべき点が理解しやすくなると思います。

### 本塚先生（コーディネーター）の講評

今回お話くださった3団体は、その地域だからこそすべきこと、できることをきちんと理解していて、その上で活動に取り組んでいると思います。無理をして最良を目指すのではなく、できることからコツコツと続けていくことが大切です。また、何らかの目標を設定することで、それに向けてすべきことが明確になります。今回の3団体はそれが大変よくできていました。

ぜひ皆さんも、ご自分の地域でできること・すべきことに、時間をかけてコツコツと取り組んでほしいです。



## 県内自主防災組織などの活動を紹介します！

### 和歌山市今福地区にて、合同津波避難訓練が行われました！

令和元年11月5日（世界津波の日）、和歌山市一斉安全行動訓練に合わせて、今福小学校・愛徳幼稚園・今福第二団地自治会の合同津波避難訓練が行われました。

同自治会と今福小学校施設開放委員会が協力し、今回初めて、この大規模な訓練が実現されることとなりました。（※今福小学校施設開放委員会：普段小学校の施設をイベントやスポーツなどで利用している団体で、訓練や啓発などの防災活動も行っている。）

午前10時の訓練用緊急地震速報を受けて、児童たちはグラウンドに集合し、その後団地の上層階に避難しました。停電している設定なのでエレベーターは使用せず、児童は8階、園児は5階を目指してそれぞれ階段を上りました。

これまでの小学校の訓練では、校舎の3階に避難していましたが、実際地震が起こった際により高く安全なところに避難できるようにと、今回団地の上層階への避難訓練を実施しました。

訓練のあと、児童たちは、防災学習や起震車による地震体験を行いました。

訓練を終えた6年生の児童は、「今までは防災についてあまり考えたことがなかったけれど、これを機に家族と話し合ってみたいです。」と話しました。



避難訓練



防災学習



起震車による地震体験

## 毎年6月1日は「自主防災組織の活動の日」です！

本会では、自主防災組織による共助の活動を促進するため、県内統一での自主防災組織の活動日を毎年6月1日と定めています。

集中活動期間（5月26日～6月8日）を中心に、地域で積極的に自主防災組織の活動を行いましょう。

訓練、研修等のお問い合わせは、お住まいの市町村防災担当課室へ！

- 活動例**
- ・「出張！県政おはなし講座」や「出張！減災教室」等を活用した防災研修
  - ・避難所運営訓練、炊き出し訓練
  - ・まち歩き
  - ・避難訓練 など

## 避難所運営ゲーム「HUG」

東日本大震災の際には、多くの方が被災し、市町村職員も多数被災したため、避難所運営に携わる人手が不足しました。一方、自主防災組織など住民の方々が中心となることで、円滑に避難所の運営が行われた例がありました。

災害から守られた命がその後の避難生活で失われることがないように、自主防災組織など住民の方々が市町村職員と協力して避難所運営を行えるように、避難所運営について皆で考えてみましょう。

### 避難所運営ゲーム「HUG（ハグ）」とは？

「HUG」とは、H（hinansho 避難所）、U（unei 運営）、G（game ゲーム）の頭文字を取ったもので、静岡県が開発しました。

HUGは、皆さんが避難所運営者となり、大規模災害の直後、次々と避難してくる避難者を体育館や教室に適切に誘導できるか、また、避難所で起こる様々な出来事にどのように対応するかなど、避難所の運営を模擬体験していただくゲームです。

プレイヤーは、HUGを通して避難行動要支援者への配慮をしながら部屋割りを考え、また炊き出し場や仮設トイレの配置などの生活空間の確保、視察や取材対応といった出来事に対して、各自の意見を出しあったり、話し合ったりしながらゲーム感覚で避難所の運営を学ぶことができます。



HUGの様子

### HUGを体験してみましょう

避難所運営ゲームHUGは、各振興局にて貸し出しを実施しています。ぜひ地域での防災活動に取り入れ、避難所運営について皆さんで学んでみてください。お問い合わせは各振興局地域振興部総務県民課までお願いします。

## 和歌山県オリジナル災害対応シミュレーションゲーム開発中！

来年度は濱口梧陵生誕200年ということで、県内外で様々なイベントなどを企画しております。その一つとして、和歌山県オリジナルの災害対応シミュレーションゲームを現在開発中です！

ゲーム内容の充実に向けて、皆さんにご意見などをお聞かせいただくこともあると思いますが、その際はどうぞご協力をよろしくお願いいたします。

なお、ゲームが完成しましたら皆さんにお知らせいたしますので、ぜひ地域でご活用ください。





## 「和歌山県防災ナビ」アプリを配信中！

和歌山県では、南海トラフ地震などの大規模災害時の的確な避難を促進するため、防災ポータルアプリ「和歌山県防災ナビ」を平成30年5月から配信しています。

アプリには、近くの避難先の検索ができたり、防災情報をプッシュ通知でお知らせしたり、災害時の家族の居場所を確認できたりといった、災害時に役立つ様々な機能があります。

また、避難トレーニング機能では、自宅などから避難場所まで実際に避難のトレーニングをすることで、その避難経路や要した時間を記録でき、その記録に南海トラフ巨大地震の津波の到達時間などの想定を重ねてシミュレーションを行うことができます。



**無料**でご利用いただけます。

アプリのダウンロード・ご利用にかかる  
通信料は利用者のご負担となります。



iOS9以降



Android4.4以降



QRコード

### ◆ 「防災わかやま」ツイッター

災害時に市町村が発令する避難勧告や、土砂災害警戒情報などの情報をお知らせします。

甚大な被害が発生するような災害が予想される場合の注意喚起や、新たな防災に関する取組も発信します。

ぜひフォローしてください。

「防災わかやま」  
@bousaiwakayama



QRコード

<お問い合わせ先>

災害対策課(073-441-2261)

### ◆ 防災わかやまメール配信サービス

県内の気象情報や地震・津波の警報・注意報など、さまざまな情報をパソコン、携帯電話などに電子メールでお知らせします。

ぜひ登録してください。



防災わかやまメール配信  
サービス登録用QRコード

[regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp](mailto:regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp)

上記アドレスに空メールを送信  
してください。



## 「きのくに自主防災」に掲載する防災活動事例を募集しています

きのくに自主防災では、地域で防災活動に取り組まれている方々の活動事例を募集しています。自主防災組織の訓練、普段の活動の取組や、学校と連携した防災活動など特色ある活動事例をご紹介いただける場合は、ご連絡をお願いします。

※紙面の都合によりご紹介いただいたものすべてを掲載できない場合もございますので、予めご了承ください。

【お問い合わせ先】 和歌山県総務部危機管理局防災企画課 TEL：073-441-2271 FAX：073-422-7652